



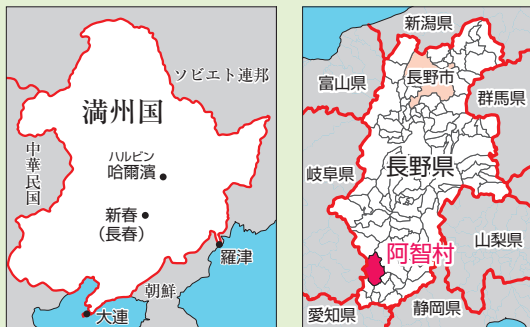
俳優 内藤剛志さん

プロフィール

ないとう・たかし＝1955年5月27日、大阪生まれ。文学座研究所を経て、1980年に映画「ヒポクラテスたち」でデビュー。映画、ドラマ、CM、バラエティー番組に数多く出演。2015年の大河ドラマ「花燃ゆ」に出演。他に「スタイルプラス」「あさイチ」「科捜研の女」「警視庁・捜査一課長」など。

満蒙開拓移民

戦前、日本の内地から満州への移住（満蒙開拓移民）は32万人以上に達し、長野県からは約50開拓団、全国最大規模の3万人が渡った。ソ連の侵攻開始後、避難の混乱の中で身寄りのない日本人の幼児は縁故や人身売買で現地の中国人の養子（残留孤児）となった。日中国交正常化後、残留させた肉親の消息を求める活動が起こったが、日本政府・中国政府双方が残留孤児捜しに積極的でなかったため、問題の解決を遅らせた。ようやく1981年に厚生省が中心となって中国残留孤児・訪日肉親捜しが開始され、多くの残留孤児が日本を訪れて肉親と再会した。残留孤児の総計は約2900人とされ、2500人余りが日本に帰国している。



映画「望郷の鐘 満蒙開拓団の落日」に主演

平和のために戦争はナンセンス

満蒙開拓団の悲劇と中国残留孤児の肉親捜しに尽力した山本慈照の半生を描く映画「望郷の鐘 満蒙開拓団の落日」がこの春、各地で上映される。中国残留孤児の父」と呼ばれた主人公・慈照を演じた内藤剛志さんが協会のインタビューに応じた。

「満州に行けば大地主になれる」。国策として、ソ連兵の攻撃に怯えてすみえられた「満蒙開拓団」となって満州に渡った阿智村（長野県）の村民たちを待っていたのは「樂園」とはほど遠い厳しい暮らしだった。1945年5月、阿智村の長学寺住職で国民学校の教師・山本慈照は1年の約束で妻と幼い二人の娘を連れて現地の教師として満州へ赴く。入植から3カ月後に敗戦を迎え、難民となった開拓民

「満州に行けば大地主になれる」と子は中国で命を落とす。戦後70年の今年、還暦を迎える。平和憲法世代の一人として、憲法改正論議にきな臭さを感じている。「日本は戦後、他国と戦争をせず、一人も殺していない。戦争をしてこなかったことは僕たちの財産。他にこんな国はない」と一言一言に力を込め、こう続けた。「その事実から考えていけば、急いで変える必要はない」と思っている。

近年の日中関係の悪化を憂い、「望郷の鐘」が両国の友好の一助になればと願っている。「領土問題も早まらないで、時間をかけて、たとえ5年10年かかったとしても、とにかく話し合いで進めてほしい。平和のために人を殺すなんてナンセンス」ときっぱり。

2015年もドラマ、バラエティーなど活躍が続く。1月から始まる大河ドラマ「花燃ゆ」では、長州藩の重臣で権勢を誇った榊原康政を務め、若き志士たちの敵役となり立ち回る。映画やドラマは、面白くなければいけない」が持論。プロパガンダだけなら映画である必要はない、とも。



Copyright © Gendai Production. All Rights Reserved

チケット取り扱いのご案内

協会は同作品の制作に協力しています。希望する会員、家族、スタッフを無料で招待します。お求めは協会事務局まで（電話06-6568-7731）。大阪での上映予定：2015年1月15日（木）10：30／14：00／18：30 吹田市・メイシアター中ホール。事務局・吹田市上映実行委員会・片山（090-8880-2040）

会員学習会のご案内 2/14～15 M&Dホール 無料

2/14
17時30分
(土)

「歯科診療報酬改定の行方と電子請求の課題」

講師：田辺隆氏（保団連副会長）

※終了後、懇親会を開きます

2/15
10時
(日)

「地域包括ケア構想と医療、歯科医療、介護」(仮)

講師：芝田英昭氏（立教大学教授）

お申し込みは協会事務局まで